

主催団体挨拶

綿貫民輔

全国道路利用者
会議会長



ご出席賜りまして厚く御礼申し上げます。今日は丁度、衆議院が本会議、参議院が国土交通委員会を開いておりますので、後からまた国会議員がたくさん来るとおもいます。また、太田国土交通大臣も出席の予定であります。

から生活道路や地域活性化のための道路などの整備を求める皆さんが、大震災による被災地の一刻も早い復旧・復興を望んでいる大勢の方がお集まりになっております。今日は、ご臨席を頂いている国会の先生方におかれましては、この会場に結集している全国各地の思いをしっかりと聞いてもらいたい、後からたくさん来るから、ゆっくり聞いてもらいたいと思っております。

先ず、今年の夏は、局地的な豪雨や突風、竜巻、そして先刻の連続した台風など、経済活動・社会活動に大きな影響を与えた自然災害が全国各地において頻発し、多大な被害を与えました。犠牲になられた方々、生活基盤を奪われた方々に、心からのお見舞いを申し上げます。

さて、現状、我が国のインフラ整備、特に道路の整備はまだまだ未熟な状況にあります。これは、全国各地からの道路整備の要望が溢れている実情を見れば一目瞭然であります。

このような状況の中、渋滞緩和や物流効率化による都市の国際競争力の強化や、地域の安全・安心の確保など、産業活動や地域住民の生活基盤としての重要な役割を果たすべき、幹線道路ネットワークの未整備区間が多岐にわたる状況であります。東日本大震災の教訓の一つでもある防災・減災の観点から、道路ネットワークの強化は絶対に必要なことであると思っております。

また、高度成長期以降に整備されたインフラの老朽化問題や、交通安全の問題など、早急に取り組まなければならない課題を多く抱えている中、公共事業を削減するという方向が変わっていることには、強く危

機感を覚えるものであります。今、必要なことは、大震災からの復興を加速させ、デジタルからの早期脱却と、経済再生に向けて、一層突き進むことでありまして、そのために、長期安定的な道路予算を確保し、速やかに事業が推進されるよう、全力を投入していくべきだと思っております。

今こそ、真に必要なとされる安全な命を守る道の整備と、国民が安心できる生活の実現を求める我々のこの熱き願いに、絶大なご支援とご協力を賜るよう、心からお願ひ申し上げます。開会のご挨拶とさせていただきます。

全国道路利用者会議会長 大臣も出席の予定であります。しかし、今申し上げたように安全・安心の道づくりを求める全国大会を開催するに当たりまして、主催の4団体を代表してご挨拶申し上げます。

また、高度成長期以降に整備されたインフラの老朽化問題や、交通安全の問題など、早急に取り組まなければならない課題を多く抱えている中、公共事業を削減するという方向が変わっていることには、強く危

来賓挨拶

太田昭宏

国土交通大臣

(代理) 増田優一国土交通事務次官



は道路予算確保の決意を熱く述べていただくべきでございます。先ほど会長からもごあいさでしたが、あいにく国土交通委員会が今ちよう開催されておりますので、出席が叶いません。

「安全・安心の道づくりを求める全国大会」が盛会に開催されましたこと、心からお祝い申し上げます。また、本日お集まりの皆様方には全国各地におきまして、道路が如何に必要か、そして人々の生活上が如何に大事であるかということを訴えていただいていることを心から感謝申し上げます。

道路は、産業活動や地域の生活を支える重要な基盤施設です。我が国では2050年には、全国の66%の地点で人口が半減すると言われております。こうした状況に對しましては、諸機能が集約した拠点と、これを結ぶネットワークを高度化する必要があると認識しております。

加えて道路の老朽化対策が喫緊の課題であります。高度成長期時代に集中的に整備した橋梁等の道路構造物が、今後、急速に経年劣

化が進行していくことから、本年をメンテナンス元年と位置付け、国民の命を守る公共事業としてインフラの点検・維持・管理・更新、老朽化対策につきまして、しっかりと取り組みを要がります。

こうしたことに対応するため、国土交通省と致しましては、必要に応じて道路整備を促進されるよう取り組んで参ります。

結ぶに、安全・安心の道づくりに対する皆様方の熱意とご尽力に改めて敬意を表するとともに、皆様のご健勝と、一層のご発展を祈念申し上げます。

来賓挨拶

梶山弘志

衆議院国土交通
委員長



整備のために大変なご尽力をされている皆様方に対して、改めて敬意を表する次第であります。

この国会から国土交通委員長を務めておりますけれども、前職、9月30日まで国土交通副大臣として道路整備の担当をいたしました。全

り、やはりそういうことをしっかりと整備をしていくことが政治、または行政の大きな役割であるということを感じたところであります。

一昨年の東日本大震災の復旧・復興の加速化は申すまでもなく、その大きな教訓を踏まえての防災・減災の取組み、また老朽化対策、それぞれの地域の、大都市部だけでなく地方も含めた成長戦略に関わる道路、そして通学路の安全、様々なニーズに対してしっかりと国土交通委員会として受け止めて、皆様とともに予算の確保、しっかりとした事業が出来るだけの努力をしていくことをお誓ひ申し上げます。

今日、今日の大会が実り多き大会となりまして、一言ご挨拶に代えさせていただきます。

にも頑張りましょう。

また、高度成長期以降に整備されたインフラの老朽化問題や、交通安全の問題など、早急に取り組まなければならない課題を多く抱えている中、公共事業を削減するという方向が変わっていることには、強く危

機感を覚えるものであります。今、必要なことは、大震災からの復興を加速させ、デジタルからの早期脱却と、経済再生に向けて、一層突き進むことでありまして、そのために、長期安定的な道路予算を確保し、速やかに事業が推進されるよう、全力を投入していくべきだと思っております。

今こそ、真に必要なとされる安全な命を守る道の整備と、国民が安心できる生活の実現を求める我々のこの熱き願いに、絶大なご支援とご協力を賜るよう、心からお願ひ申し上げます。開会のご挨拶とさせていただきます。

本日は「安全・安心の道づくりを求める全国大会」、正に文字通りの全国から、それぞれの地域の道路の早期整備を切望する皆さんが集まりましたが、その大半が道路の整備であります。また、公共事業という一つの言葉で括れない、それぞれの地域ごとの切実な思いがあることを感じました。



決議文朗読



宮本和宏

道路整備促進期成同盟会
全国協議会常任理事

決議

道路の質を高め、地域の安全・安心、地域経済の振興を図るため、次に掲げる道路整備については、道路利用者の意見を十分反映しつつ、計画的かつ着実に推進すること。

- 一 東日本大震災からの復興加速と事前防災・減災対策
- 一 高規格幹線道路等の未整備区間の解消
- 一 人流・物流の円滑化のための渋滞対策
- 一 道路構造物の老朽化対策
- 一 通学路等の交通安全対策
- 一 スマートICや「道の駅」の整備

長期安定的に道路整備が進められるよう、平成二十六年道路関係予算は、「新しい日本のための優先課題推進枠」を含め、所要額を確保すること。

平成二十五年十一月二十八日

安全・安心の道づくりを求める全国大会